



小黑一三氏からのご意見

環境対応

- CSR、環境への取り組みを見て、今年、伊藤園が何を進めているのか、もっとうまくアピールできるとよいと思います。アジアの文化を象徴しているのがお茶だと思うので、それぐらいの世界的な視野で考えて欲しいです。
- 茶殻のゴミ箱（容器回収ボックス）を見て、あれは素晴らしいなと思いました。これが全国に広がることで、ゴミ箱ですし、回収ですから、企業の環境に対する姿勢が伝わり、伊藤園に対する社会のイメージが変わる可能性があると思っています。
- 茶殻事業に関しては、社内ベンチャーにしたり、NPOを絡ませたりして横串を刺していけば、マスコミも取材しやすいと思います。昔、環境省でやっていたみたいに、小学生が茶殻で素敵なものを作ったとか、素敵な新しいストーリーが欲しいです。それが環境の時代です。このように工夫していけば、素晴らしい伊藤園の財産になっていくと思います。

環境訴求の工夫

- 環境においては、ゴミ箱はイタリアのデザイナーに依頼するとか、デザインが本当に大事です。この点は食文化運動も一緒です。また、キャッチコピー作りも大事です。地域の子供たちなどに対して、どういうメッセージや方向性で教育をしていくのかを考え、我々マスコミを使って広げていただければ、人間的なメッセージ性が伝わると思います。
- 現代の日本の若者にも届くような、容器も含めた製品の開発や宣伝の仕方でも非常に工夫をした製品が出てきています。若者のエコ志向にも響いて、「格好いい」という評価を受けています。昔はエコに理解がなく、エコ雑誌は苦勞しました。今になってようやく、ボランティアなどの社会貢献やエコの概念は「格好いい」と言われています。今の若者がエコの流れを牽引しています。伊藤園も、製品開発で参考にさせていただきたいです。



小黑一三氏
月刊ソトコト編集長、木楽舎社長

伊藤園の対応

- 貴重なご意見を頂いたので、今後、デザイン、メッセージ性など、製品開発やアピールの面でもいろいろ工夫していきたいと思っています。また、国際森林年2011にあたり、伊藤園として取り組みにテーマ性を持たせて、愛知県で森林を保護する活動なども進めています。このようなことも効果的にアピールしていきたいと思っています。
(笹谷)
- 革新的な技術開発に積極的に挑戦する、お客様の生活を豊かにする製品開発を行なっています。新しい文化の創造、文化の継承という側面もあります。これからも新技術で社会に貢献していきたいと思っています。茶殻のリサイクルシステムのさらなる発展に関しても対応していきます。
(安倍・開発部長)